

令和 2 年度
横須賀美術館 事業計画書（案）
【修正版】

～多様な学びを生み出す美術館に～

令和 2 年（2020 年） 3 月

横須賀美術館

令和2年度 横須賀美術館事業計画

～多様な学びを生み出す美術館に～

横須賀美術館は、美術を通じた様々な機会を提供し、市民の美術に対する理解と親しみを深めることを目的に平成19年に開館しました。そして今日まで、国内外の優れた美術を紹介する企画展、約5,000点のコレクションを紹介する所蔵品展や谷内六郎展、教育普及に資する事業を展開し、令和元年度は目標である観覧者数10万人を大きく超えるなど、飛躍の年となりました。

令和2年度は、各種展覧会、ワークショップ、芝生広場を活用したボランティアイベント、学校教育との連携、障害のある方などに向けた福祉的な活動を進めます。また、全庁的な取り組みである浦賀奉行所300周年記念事業と関連し、所蔵品展において特別展を行います。

加えて、博物館や図書館など本市の社会教育機関との交流を深め、相互に事業の効果が高まるよう連携を促進します。

そして、毎年度の美術館運営評価の結果を次年度以降の美術館運営に生かし、当館が掲げる使命を果たしていくことで、市民に多様な美術の表現に触れる機会を提供し、学びを生み出す美術館を目指してまいります。

◎横須賀美術館の使命・目標

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

II 美術に対する理解と親しみを深める

- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

展覧会及び観覧者数（見込）

	展覧会名	会期	観覧者数(人)	備考
企	宇都宮美術館コレクションによる マルク・シャガール展	4/25-6/21	20,000	
	ミロコマチコ展	7/4-8/30	30,000	
画	上田薫展	9/12-11/3	20,000	
	倉重光則+天野純治展	11/14-12/25	7,000	
展	第73回児童生徒造形作品展	1/9-1/25	14,000	
	ヒコーキと美術展	2/6-4/11	13,000	
	所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	
	計		110,000	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・美術館のロケーションを生かした野外イベントの実施
- ・ミニコンサート等、各種イベントの開催
- ・年間パスポート、前売券の販売

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベントへの参加、協賛による情報発信
- ・本市社会教育施設等と連携した情報発信、広報

- ・浦賀奉行所 300 周年記念事業関連事業に関するイベントへの協力と美術館の事業として開催する「第 3 期所蔵品展特集：浦賀奉行所開設 300 周年記念事業 長島雪操展」の P R 活動

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加、協賛による情報発信
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
- ・京急電鉄との連携による「よこすか満喫きっぷ」の利用促進

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントへの参加、協賛
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

(4) 団体集客の推進

- ・横須賀観光協会との協力による団体誘致
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・団体向けガイドの実施

(5) 商業撮影、取材の受入と誘致

- ・美術館のイメージアップにつながるような T V 放送や取材の受入、ファッション誌などのスチール撮影、CM 撮影、プロモーションビデオ撮影などの受入

【達成目標】 年間観覧者数 110,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数（平成 29 年度～令和元年度）は、いずれも 11 万人を超えています。
- ・そのような状況を踏まえ、令和 2 年度から達成目標の数値を 10 万人から 11 万人に引き上げました。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)
見込み (A)	105,000	104,000	104,000
実績 (B)	118,370	111,431	145,308
達成率 (B/A×100)	112.7%	107.1%	139.7%

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。

【目標設定の理由】

横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。

広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。

そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートーク (GT) ボランティア 年 77 日
- ・所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 65 回)
 - ・研修を実施します。(2 回)
 - ・所蔵品展のレクチャーを実施します。(4 回)
 - ・ボランティアの自主研修を支援します。(6 回)
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 52 日
- ・小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)
 - ・ボランティアを募集し、研修を実施します。(1 回)
 - ・企画展のレクチャーを実施します。(5 回)
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
- ・障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
 - ・ボランティアを募集します。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度
- ・海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを、ボランティアが自ら企画・準備・運営します。(時期：春、夏、冬の 3 回)
 - ・ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 3 日程度
- ・ボランティアイベント実施の補助をします。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日と祝日(土曜日を除く) 研修:原則として木曜日	隔年4～5月	年間 12 回	1 年間(更新有)
(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月	年間6回	1 年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1 年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1 年間(更新有)
(5)	年3回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ 2,400 人

[目標設定の理由]

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・令和2年度は、ギャラリートークボランティアの募集を行わないため、館主導による研修は行いません。その代わりに、ボランティア同士が話し合い、研修内容を決めていく自主研修を行い、学芸員はサポートに回ります。そのため、活動回数は、令和元年度よりも少なくなります。
 - *ギャラリートークボランティア登録者数 24名（令和2年1月末時点）
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、令和元年とほぼ同等となる予定です。
 - *小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 21名（令和2年1月末時点）
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数は増加しています。以前は1回の活動につき2～3名と定員を設けていましたが、昨年度より申し出があれば参加できるようにしています。
 - *みんなのアトリエボランティア登録者数 17名（令和2年1月末時点）
- ・プロジェクトボランティアの活動については、令和元年度と同等となる予定です。
 - *プロジェクトボランティア登録者数 15名（令和2年1月末時点）
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、令和2年度の目標は、延べ2,400人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数 (単位：人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (1月末)	令和2年度 (目標)
ギャラリートークボランティア	338	433	316	330
小学生美術鑑賞会ボランティア	197	269	270	200
みんなのアトリエボランティア	21	39	35	20
プロジェクトボランティア	272	229	167	200
プロジェクト当日ボランティア	49	26	30	30
小計	877	996	818	780
ギャラリートーク参加者	453	656	292	320
ボランティアイベント参加者	1,363	855	1,304	1,300
小計	1,816	1,511	1,596	1,620
計	2,693	2,507	2,414	2,400

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。令和2年度は春には「宇都宮美術館コレクションによるマルク・シャガール展」、夏には絵本作家であり近年は絵画や立体など幅広い制作を行うミロコマチコ(1981-)による個展を準備しています。秋には「スーパーリアリズム」で知られる洋画家「上田薫展」を、他に地域にゆかりがあり優れた現代作家2人による「倉重光則+天野純治」展、飛行機がもたらした光と影の側面について美術の視点から考察する「ヒコーキと美術」、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

① 宇都宮美術館コレクションによるマルク・シャガール展

4月25日(土)～6月21日(日)

マルク・シャガール(1887-1985)は20世紀を代表する画家のひとりです。本展では、国内屈指の20世紀美術コレクションを誇る宇都宮美術館が所蔵する油彩画と版画約160点により、その豊穡なる絵画世界をご覧ください。

② ミロコマチコ いきものたちはわたしのかがみ

7月4日(土)～8月30日(日)

デビュー作『オオカミがとぶひ』(2012、イーストプレス)が、第18回日本絵本賞大賞を受賞し、その後も主要な絵本賞を連続受賞している画家・絵本作家ミトコマチコ(1981-)の展覧会。「ミロコマチコとは何者なのか?」をテーマとして、絵画、絵本原画、書籍の挿画、立体、資料など約200点により、その魅力に迫ります。

③ 上田薫展

9月12日(土)～11月3日(火・祝)

殻を割った瞬間の、つるりと流れ落ちる卵の姿を描いた「なま卵」シリーズをはじめ、スプーンですくった瞬間のアイスクリーム、ジャムなど、一瞬の動きをとらえたリアルな絵画で知られる上田薫(1928～)の回顧展。1970年代から2000年代までの作品を中心とした約60点により、その歩みを振り返ります。

④ 倉重光則+天野純治展

11月14日(土)～12月25日(金)

正方形の四辺の一部にネオン管を組み合わせ、人工的な光による空間をつくりあげる倉重光則(1946-)と、近年はシルクスクリーンの版を用いて「色彩の物質化」としての絵画を手掛ける天野純治(1949-)による二人展です。

⑤ 第73回児童生徒造形作品展

令和3年1月9日（土）～1月25日（月）

市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちによる作品展です。日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

⑥ 「ヒューキと美術」展

2月6日（土）～4月11日（日）

1912年に追浜海岸で海軍による初飛行が行われて以来、1945年の終戦まで、横須賀と飛行機には深い関わりがありました。この展覧会では、飛行機の登場がもたらした光と影について、美術の視点から考察します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

① 第1期所蔵品展 4月11日（土）～6月14日（日）

特集：中村光哉 季節をうつす友禅

② 第2期所蔵品展 6月20日（土）～9月13日（日）

特集：川端実

③ 第3期所蔵品展 9月19日（土）～12月13日（日）

特集：浦賀奉行所開設300周年記念事業 長島雪操展

④ 第4期所蔵品展 12月19日（土）～令和3年4月4日（日）

特集：島田章三

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 5回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

・開催：土日、定員：各70名程度（先着制）

(2) ワークショップの開催 6回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

・展覧会に関連したワークショップ、開催：会期ごと 3回

・大人向けワークショップ、開催：9月、11月（予定） 3回

・いずれも土日開催、定員各20～25名程度、事前申込制

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

・開催は2月（予定）、定員30名×2回、事前申込制

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 5、6回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

・企画展毎に1、2回程度、当日自由参加

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説

随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

また、市内社会教育施設と連携し、必要に応じて市民大学講座などで展覧会や所蔵作品等の講義を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約3万2千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵資料の充実

・一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する図書資料を収集し、幅広い年代に利用される蔵書の構築に努めます。

・貴重な美術雑誌の欠号補充（古書購入）と補修をし、利用と保存に適した状態にします

(2) 所蔵資料に関する情報提供

・受入れた資料を速やかにデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させます。

・展覧会の開催にあわせ関連図書資料の紹介を行います。

4 調査・研究

・横須賀ゆかりの作家や所蔵作品に関連する情報を収集し、作品の調査・研究を行います。

・調査した内容を展覧会等に還元します。

【達成目標】 企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。

・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。

・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。

・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)
企画展満足度	88.0%	89.6%	87.4%	89.9%

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。
- ・資料の分類や配架を工夫し、利用しやすい図書室環境の維持に努める。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

1 学校との連携

- (1) 中学生のための美術鑑賞教室の実施 夏季休業期間中
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を夏休み期間中に開催します。
- (2) 「美術鑑賞会」の受け入れ（市内全小学校6年生） 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
- (3) 学校で行われる鑑賞活動の支援 学校の要望があるとき
授業の中で横須賀美術館の所蔵品を活用した授業が実施される際には、学校と連携し、教材活用のサポート、研修、出前授業等を行います。
- (4) 学校で行なわれるキャリア教育の支援 学校の要望があるとき
市立中学2年生の職場体験を受け入れます。また、職業講話をはじめ、学校等で行われるキャリア教育に協力します。
- (5) 学芸員実習の受け入れ 1回（6日間程度）
学芸員資格取得を目的とする大学生のために、学芸員実習を行います。
- (6) 教員のためのプログラム 1回程度
学校・教員と美術館との連携を促進するため、美術館および所蔵品の活用に関する教員向けの講座を開催します。

2 子どもたちへの美術館教育

- (1) ワークショップの開催 9回
子どもたちが美術に親しめるよう、子どもまたは親子を対象としたワークショップを開催します。
また、令和2年度は、これまで「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」に位置づけていた「未就学児ワークショップ」の年齢制限を緩和し、当事業の中の低年齢児童向け事業と位置づけ実施します。
・開催：5、7、8、1、3月（予定）、定員：1回20名程度、事前申込制
- (2) 映画上映会の開催 2回
気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会（野外シネマパーティー）を開催します。
・開催：8～9月（予定） 定員：なし（当日自由参加）
- (3) 親子ギャラリーツアーの開催 4～5回
親子で美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。
- (4) 保育園との連携 20回
市立保育園10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の2つを行います。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

[目標設定の理由]

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。

春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和2年度は、夏季に開催する画家・絵本作家ミロコマチコ氏の展覧会において、家族・子ども層に向けた取り組みを積極的に進めます。

ただし、ミロコマチコ氏の支持層は、令和元年度に多くの幼児に支持されたせないこ氏と比べ、高めの年齢であると見込んでいます。このため、令和2年度の本項の目標値は、昨年と同じく 22,000 人が妥当であると考えます。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)	令和2年度 (目標)
幼児	11,562	5,246	12,469	6,000
小学生	12,335	11,748	14,605	12,000
中学生	3,448	3,811	3,975	4,000
計	27,345	20,805	31,049	22,000

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

[目標設定の理由]

- ・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。
- ・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。
- ・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通じた言語活動の充実、校外での児童の作品展（小中学校）など、図工・美術の学習指導要領を踏まえ、具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。
- ・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなどにも力を入れていきます。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵作品約 5,000 点の管理を行います。

1 美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）

- ・美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。
 - (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
 - (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
 - (3) 「海」を描いた作品
 - (4) 日本の近現代を概観できる作品
 - (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品
- ・寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。
- ・収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

- ・作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。
- ・作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

3 環境調査の実施 年 2 回

収蔵庫、保管庫及びその周辺（搬入口、荷受荷解室）、展示室、閉架書庫について環境調査を実施します。

4 美術品評価委員会の開催 年 1 回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

5 美術品等取得基金

横須賀市のふるさと納税による寄附金を美術品等取得基金に積み立て、将来の美術品購入の財源とします。

ふるさと納税寄附開始の初年度である令和元年度の寄附額（1 月末現在）は 1,412,000 円となっており、基金が平成 30 年度末で保有する現金 397,211 円に合算されます。

美術品の購入は資金が十分でないことから、令和 3 年度以降に購入する予定であり、今後も多くの寄附をいただけるようホームページ、SNS 等で積極的な PR を行います。

【達成目標】環境調査の実施（年 2 回）

美術品評価委員会の開催（年 1 回）

[目標設定の理由]

作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、とい

う性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・ 作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

[目標設定の理由]

優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

1 運営業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供します。

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有
(運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日)
- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握
- ・館内巡回によるスタッフ対応等の確認(毎日)
- ・レストランと連携した企画展ごとのコラボレーションメニュー提供の継続
- ・付帯施設(ショップ・レストラン)に対するアンケート結果等を提供し、協力して満足度の向上を図る

2 維持管理業務

施設・設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供します。

- ・設備担当スタッフ(委託業者)による設備点検(毎日)
- ・館内巡回による清掃状況及び施設不具合の確認
- ・施設・設備の不具合箇所に対する早急な修繕および計画的な修繕

【令和2年度の主な修繕の予定(100万円以上の案件を抽出)】

区分	案件	金額(円)
施設	本館建具塗装改修工事	17,235,000
	本館屋上屋根ガラス交換工事	13,913,000

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目(アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合)の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目(スタッフ、総合)を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度(総合満足度)、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」

に対する満足度を指標としています。

なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)
館内アメニティ満足度	92.8%	95.1%	93.5%
スタッフ対応の満足度	86.8%	88.5%	87.9%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

[目標設定の理由]

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- | | | |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1 | 福祉活動講演会の開催 | 1回 |
| | 触察本の制作や彫刻の触察など、誰もが美術に親しむことができるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。大学等、関連機関への広報を行います。 | |
| 2 | 福祉関連イベントの開催 | 2回 |
| | 障害の有無に関係なく、誰もが美術や表現活動に親しむことができる福祉関連イベントを開催します。令和2年度は、点字図書館と連携した視覚障害者対象の鑑賞会、障害福祉課と連携した通所施設利用者対象のワークショップ等を計画しています。 | |
| 3 | 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 | 12回 |
| | 障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。年度末に、ワークショップ室において一年間の成果を展示します(共同制作した大型作品の展示)。 | |
| 4 | 他館との連携 (MULPA) | レクチャー等 2回 |
| | 近隣美術館(神奈川県立近代美術館、平塚市美術館、茅ヶ崎市美術館)や芸術活動支援団体と連携し、障害者や定住外国人等の表現活動および美術館利用を推進するための事業を実施します。(令和2年度までの継続事業) | |
| 5 | 託児サービスの実施 | 実施 |
| | 1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスを実施します。 | |

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 320人以上

[目標設定の理由]

福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります。そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。

このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなります。そこで、過去の事業内容と参加者数、令和元年度の事業内容を考慮し、320人以上を令和2年度の目標値とします。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)	令和2年度 (目標)
福祉関連講演会	12	22	48	40
福祉関連イベント	37	41	40	40
		14	未	
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	197	255 ^{※1}	165	200
未就学児ワークショップ	33	39	39	— ^{※3}
他館連携(MULPA)	133 ^{※2}	55 ^{※2}	未	40 ^{※2}
託児	23	19	実施	実施
計	435	445	292	320

- ※1 みんなのアトリエ参加者数は、保護者やきょうだい児を含みます。
- ※2 他館連携は平成 29 年度から令和 2 年度までの実施とし、以降は、自主事業として一部事業を継続できないか、検討する予定です。
- ※3 令和 2 年度の未就学児ワークショップは、参加者からのニーズに基づいて年齢制限の幅を緩和し、「④子どもたちへの美術館教育」の中に位置付けて実施する予定です。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

[目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成 30 年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、令和 2 年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H29～R1）の平均値を目安とします。これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 (1月末)	令和2年度 (目安)
総電気使用量(kWh)	2,539,289	2,625,210	2,236,111	2,466,870
水道使用量(m ³)	4,608	4,635	4,184	4,476
事務用紙使用枚数 (枚)	259,550	226,500	187,500	224,517

※令和2年度の目安値は令和元年度1月末の実績値を基に算出し、年度末の実績値を基に改めて目安値を設定する予定。

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

横須賀美術館 令和2年度予算

◎横須賀美術館の使命・目標別 歳出予算

単位：千円

使命・目標	R2		R1
	当初予算	前年度比	当初予算
I 美術を通じた交流を促進する	8,408	△ 2,416	10,824
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	8,034	△ 2,426	10,460
展覧会の実施	③に掲載		③に掲載
広報・集客促進事業	8,034	△ 2,426	10,460
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	374	10	364
II 美術に対する理解と親しみを深める	96,567	776	95,791
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	88,096	220	87,876
展覧会事業	84,285	436	83,849
教育普及事業	3,011	△ 216	3,227
美術図書室運営事業	800	0	800
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	1,584	91	1,493
学校との連携	390	83	307
子どもたちへの美術館教育	1,194	8	1,186
⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	6,887	465	6,422
III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する	303,900	△ 20,850	324,750
⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	302,097	△ 20,797	322,894
⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	1,803	△ 53	1,856
⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。	0	0	0
合 計	408,875	△ 22,490	431,365

◎美術館費全体の予算

単位：千円

	内 容	R2		R1
		当初予算	前年度比	当初予算
歳入合計(A)		119,270	△ 16,659	135,929
観覧料		54,759	6,131	48,628
駐車場使用料		12,956	673	12,283
その他(図録販売等)		51,555	△ 23,463	75,018
歳出合計(B)		534,655	△ 20,482	555,137
給与費	職員給料、非常勤職員報酬、委員報酬、社会保険料等	125,780	2,008	123,772
展覧会事業	展覧会の開催に要する経費	84,285	436	83,849
教育普及事業	教育普及活動に要する経費	6,772	△ 168	6,940
美術品収集管理事業	収集保存管理に要する経費	5,111	△ 270	5,381
運営事業	広報、地域連携、図書室の運営、パンフレット印刷物制作など館全体の運営に要する経費	8,834	△ 2,426	11,260
管理事業	維持管理に要する経費	302,097	△ 20,797	322,894
美術品等取得基金積立金	美術品等を購入するための積立金	1,776	735	1,041
差引(B-A)		415,385	△ 3,823	419,208